

# 私学の魂

日本大学豊山女子中学校・高等学校

## 時代の変化に応じて必要な改革を次々と実現し、 “チャレンジ”する心と自己肯定感を育て、 「女子にしばられない」大きな成長を促す 日本大学直属付属校で唯一の女子中学・高等学校

板橋区の高台に位置するキャンパスの斜面を利用して、地上4階、地下3階の校舎にエレベーターとエスカレーターも備えた新1号館A・B・C棟が2010年に竣工、新グラウンド（人工芝）も完成して恵まれた教育環境を整え、高校創設50周年、中学創設30周年を迎えた2016年という節目の年に、日本大学付属校では二人目の女性校長として、日本大学豊山女子中高に着任した柳澤一恵先生。

その後2年の間に22もの改革を実現し、同校の教育改革と進化をけん引しつつ、自ら学校説明会では陣頭に立ち、海外研修や様々な体験学習にも同行して国内と海外をも飛び回る、まさにバイタリティーあふれるニューリーダー・柳澤一恵先生と、広報部主任の我妻等先生に、今回はお話を伺いました。



校長 柳澤 一恵先生

### DATA 1

#### 日本大学豊山女子中学校・高等学校

- 沿革 1966（昭和41）年 日本大学が設置した最初の独立した女子高等学校として、日本大学豊山女子高等学校新設開校。
- 1971（昭和46）年 理数科を設置。
- 1986（昭和61）年 日本大学が設置した最初の独立した女子中学校として、日本大学豊山女子中学校新設開校。
- 2000（平成12）年 スクールバス（赤羽）運行。
- 2007（平成19）年 新1号館A棟（第1期工事）完成。スクールバス（練馬）運行。
- 2009（平成21）年 新1号館B棟（第2期工事）完成。
- 2010（平成22）年 新1号館C棟（第3期工事）完成。新1号館竣工式挙行政。
- 2016（平成28）年 柳澤一恵校長就任。高等学校創設50周年・中学校創設30周年記念式典挙行政。新グラウンド（人工芝）完成。
- 2017（平成29）年 高等学校3コース制（A特進・N進学・理数S）。中学入試に「思考力型入試」を新設。
- 2018（平成30）年 中学入試に「適性検査型入試」を新設。

校長 柳澤 一恵

所在地 〒174-0064 東京都板橋区中台3丁目15番1号  
TEL：03-3934-2341

<http://www.buzan-joshi.hs.nihon-u.ac.jp/>

交通 都営地下鉄三田線「志村三丁目駅」、東部東上線「上板橋駅」より徒歩15分。  
JR「赤羽駅」西口、都営大江戸線・西部池袋線・東京メトロ「練馬駅」からスクールバスあり。

## 日本大学付属校二人目の女性校長として 日大豊山女子の改革を託された 柳澤先生が実行した22の学校改革

日本大学豊山女子中学校・高等学校は、日本大学の付属中学校・高等学校のなかで、唯一の独立した女子中学校・女子高等学校として設立された学校です。

この日本大学豊山女子中学校・高等学校（以下・日大豊山女子と表記）の校長に、柳澤一恵先生が着任したのが2016年4月。それまでは、同じ日本大学の直属付属校である日本大学三島高等学校で3年、日本大学豊山中学校・高等学校で32年教壇に立ち、異動前には3年間、同校の教頭を務めてきました。

男子校で長く生徒の成長を見守り、現場の先生方をリードしてきた柳澤先生が、日本大学の付属校のなかでは二人目の女性校長として女子校である日大豊山女子中高を任されたのは、その感性や優しさを生かし、なおかつ男子校で経験を積むなかで身に着けた大胆かつ果敢な行動力で、新たな時代に生きる女子育成のための教育改革を期待されたということでしょう。

「女子校へと言われたときに、最初は少し驚きましたが、日大三島高校では男女別学時代の女子部にいましたし、男子校の日大豊山中高も、もともと近い関係にある姉妹校ですから、さほど違和感はなかったですね」と柳澤先生。

そして、2016年から2017年の2年間だけでも、柳澤先生は何と「22」もの学内改革・入試改革を実現してきました。それが下記のような改革です。

こうして一連の改革を見てみると、ご自身も日本大学付属の女子校（女子部）を卒業して、お子さんも日大豊山女子で中高6年間を過ごし、そして現在は校長の立場にある柳澤先生ご自身の経験と感性を生かして、

生徒目線、母親目線、校長目線のいずれもの視点から改革を行ってきたことが感じ取れます。

時代のニーズに応え、新たな時代に生きる女性を育て、なおかつ学校生活を楽しく過ごせるようにと考えた柳澤先生の理想が、この矢継ぎ早の改革に反映されていると考えてよいでしょう。

### 「私は女子にしばられない。」 そうした教育環境のもとで、 “チャレンジ”する心を育てる！

こうして校長の柳澤先生を中心に、同校の先生方が「新たな日大豊山女子」の教育を形作るべく、2017年から掲げたコンセプトと、それを表すキャッチフレーズが、「私は女子にしばられない。」「だから私は豊山女子。」という言葉です。

同校の「学校案内」パンフレットやポスターにも謳われたこの言葉が、いま目覚ましい“進化”を遂げつつある日大豊山女子の雰囲気象徴しています。

「これからは予測不可能な未来に立ち向かっていかなければならない時代。



新生・日大豊山女子が掲げた新たなフレーズ「私は女子にしばられない。」

## 柳澤校長が2016～2017年に実行した22の学校改革

コラム1

### 【学校生活編】

- 1.リュック型バッグの導入
- 2.自転車通学解禁
- 3.制服にボロシャツ導入 [高校]
- 4.補食の自販機導入
- 5.人工芝グラウンド設置

### 【学習編】

- 1.選抜クラス [中学]、特進クラス [高校] の設置
- 2.ラーニングcommons (自習室) の設置
- 3.沖縄修学旅行へプログラム変更 [中学] (2020年度より実施決定)
- 4.オーストラリア修学旅行へプログラム変更 [高校N進学・理数S] (2020年度より実施決定)
- 5.探究学習の強化・進化
- 6.Z会の導入 [中学]
- 7.タブレットを活用した授業強化

### 【英語学習編】

- 1.ボストン修学旅行導入 [高校・A特進]
- 2.ニュージーランド春季短期留学 [中学]
- 3.British Hills研修 [中学]
- 4.JETの導入・活用
- 5.ベルリッツの導入・活用
- 6.英検®全員受験の開始 (2018年より実施)
- 7.English Room設置

### 【その他】

- 1.教員研修の実施 (いじめ防止・ICTなど)
- 2.「思考力型入学試験」スタート [中学・2017年より]
- 3.「適性検査型入試」スタート [中学・2018年より]



中1・中2の希望者が参加するニュージーランド春季短期留学。

生徒が自分で考え、乗り越えられなければ、その時代を生き抜くことは困難です。型にはまったキャリア形成へと導くのではなく、個人の特性を伸ばし、生徒自身で見つけた将来像へと、“女子にしばられることなく”進んでほしいのです。

将来、未体験の出来事にぶつかったときでも、強くたくましく乗り越えていける人。それが私がめざす生徒像です。そこに男女は関係ありません。『人として』考える力があるのか、生徒の可能性を十分に引き出した『生き方』を一緒に見つけていけるか、そういった教育のあり方に向き合っています」と柳澤先生。

そしていま、日大豊山女子では、「国際交流教育」と「キャリア教育」を同校の教育の「2本柱」と明確に位置付け、それらをつなぐプログラムや道具として、「探究学習」と「ICT活用」を掲げています。

それらを実現し、生徒の大きな成長を促すのは、生徒自身の“チャレンジ”であり、それをサポートする教師陣の“チャレンジ”であると柳澤先生は考えています。

「当初から言い続けてきた“チャレンジ”という言葉がありますが、4年目を迎えても、その姿勢は変わりません。まだまだ改革が必要な部分は多くありますが、小さなことから一つずつ『女子にしばられない教育』を根付かせていきたいですね」と、柳澤先生は、これまでの日大豊山女子の変革の歩みを、さらに確かなものにしていく覚悟を伝えてくれま

した。

「初期の改革で行った、自転車通学の解禁やポロシャツの導入などは、以前から教員の間からも提案がされていたのになかなか実現までは至らなかったのですが、それが柳澤校長の決断で実現できました。そういう果敢なリーダーシップが、教員の意識の変化を引き出しています。

たとえばICT活用による授業改革にしても、教師全員が一斉に足並みを揃えることは難しくても、最初は意欲的な教員数名が導入して、その工夫や手応えを伝えてくれるうちに、その動きが多くの教員の間広がっていききました。校長の言う『小さなことから一つずつ』というのは、そういう意味でもあると思います」と、広報部主任の我妻等先生は話してくれました。



広報部主任 我妻等先生

生徒も教員も、ともに“チャレンジ”の機会を広げていくことで、日大豊山女子の「女子にしばられない教育」は、一歩ずつ着実に理想に近づいていくに違いありません。

## あらゆるSNSで学校の“いま”を発信。その変革や進化の激しさから、OGの間で「どうした、豊山女子!?’と驚きの声も!

先の「22の改革」には含まれていませんが、柳澤先生の就任着の3年間で行われてきた改革のひとつに、SNSを積極的に活用した「情報発信」も特筆できます。

それまでは、日大豊山女子の教育についてのWeb(イ



ンターネット)情報は、公式 Web サイトでの発信に限られていましたが、2017年からは、「Twitter」、「Facebook」、「YouTube」での発信も公式にスタート。日大豊山女子の学校生活や、様々な教育プログラム、生徒の取り組みや新たな成果を、同校の関係者や、同校に関心を持つ人々がリアルタイムで知ることが可能になりました。女子校でここまでの広く多様な発信をしている学校は、首都圏でも稀有な存在です。

「SNSの活用についても、最初は学内で賛否両論がありました。ただ、実際に導入してみると、それが本校の教育の“いま”を学外の人に広く知ってもらえることにつながり、それが生徒や教員の励みにもなって、学校が活気を増してきたように思います。気をつけて発信していれば、危険なこともほとんどないことがわかりました」と柳澤先生は言います。

こうして、SNSも活用して積極的な発信をしてきたことにより、最近の日大豊山女子の変革や進化が少しずつ知られるようになり、同校の卒業生の間でも「どうした豊山女子!？」という、良い意味での驚きの声が変わられるようになってきたといえます。

ちなみに、板橋区中台の斜面にあるキャンパスに、地上4階、地下3階までの高層校舎を整えた新1号館には、スクールバスが発着するロータリーのある地下3階から最上階までを結ぶエレベーターだけでなく、校舎1階から地下3階までつながるエスカレーターも設置され、同窓会などで久しぶりに母校を訪れたOGに、「校内にエスカレーターまであるなんて…!」と驚かれることも多いとか…。それ以前の在校生は、現在の正門から続く坂道を登って校舎まで入るのに一苦労だった時代を懐かしく思い出しつつも、現在の母校の環境に好感を持ってくれるといえます。

2000(平成12)年には赤羽から、2007(平成19)



中2全員が参加する British Hills (国内) 英語研修。

年には練馬からスクールバスが運行を開始していることも、まだ知らない世代の卒業生もいるかもしれません。

「かつてと比べると、生徒は通学もかなり便利になったと思います。通学の範囲も広がっていますが、何より地元である板橋や近隣エリアから来てくれる生徒も大切にしたいという理由から、自転車通学も解禁にしたのです」と柳澤先生。

学童生徒数が増加する荒川区や浦和市などのエリアからも通学のターミナルとなる駅からスクールバスが運行し、そのバス通学がとても便利なこと、多くの小学生と保護者に知ってもらいたいことのひとつです。

## 2017年新設の「思考力型入試」と2018年新設の「適性検査型入試」が、多様な小学生に受験～入学の門戸を開いた!

もうひとつ、多くの小学生と保護者に知ってもらいたいが、日大豊山女子では中学入試に、2017年から「思考力(プレゼンテーション)型入試」を、翌2018年から「適性検査型入試」を導入していることです。

首都圏の女子校では初めて「思考力」と銘打った同校の「思考力型入試」は、提示された10～12の「お題」から、自分で好きなテーマを選び、受験生一人に1台ずつ用意されたタブレットや、試験会場となるラーニングcommons(自習室)の本や、別フロアの図書館にある本を自由に選んで、そ

高1から「3つのクラス」に分かれて学習

### → 高等学校

社会で活躍する女性へ

<p><b>A特進クラス</b> 特長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国公立大への進学を目指す ●難関大入試に対応したカリキュラム</li> <li>●ボストン修学旅行  ●ラーニングcommons(自習室)完備</li> </ul>	
<p><b>N進学クラス</b> 特長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本大学への進学を目指す ●安心の付属推薦制度 ●部活動との両立</li> <li>●多様な夢の実現 ●オーストラリア修学旅行 </li> </ul>	
<p><b>理数Sクラス</b> 特長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●理数分野のスペシャリストを育成 ●医・歯・薬学系に高い実績</li> <li>●課題研究 ●理数科特別講座 ●オーストラリア修学旅行 </li> </ul>	
<p><b>国際交流教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カナダ海外英語研修(高1・2)</li> <li>●ケンブリッジ大学 イースター・サマー・プログラム(高1・2)</li> </ul>	<p><b>キャリア教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全学年共通</li> <li>●校外学習 ●日本大学学部体験</li> <li>●探究学習 ●キャリアデザイン講演会</li> <li>●企業講演会</li> </ul>



首都圏の私立女子校のなかでは最も早く2017年入試から新設・導入された「思考力（プレゼン）型入試」の様子

のテーマについての調べもの（最長90分間）をして画用紙にプレゼンペーパーとしてまとめ、できた順に別室に移動して、各教室2人ずつ待つ試験官の先生に向けて、プレゼンテーションをするという形式の入試です。最近、新たな大学入試として話題になることも多い、国立のお茶の水女子大学の「新フンボルト入試」に近い形態とコンセプトの入試ともいえるでしょう。やはり同校が最近の教育改革のなかで重視してきた「探究学習」のコンセプトを反映した入試でもあります。

90分の間には、休憩してもトイレに立っても、パンなどの補食を食べても良いとされていますが、実際の入試ではほとんどの受験生が、集中して各自の選んだテーマの調べものとプレゼンペーパーの作成に取り組んでいたようです。ただ、「もっとリラックスして各自の課題に取り組めるようにしたい」という先生方の思いから、今春2019年入試では、試験中にBGMを流すようにしたと聞きました。

「昨年11月3日に首都圏模試センターが主催した『新入試体験！ 私立中コラボフェスタ』で本校の体験講座を受講してくれたなかに、終了後に保護者と合流したときに、『日大豊山女子の体験が面白かった！』と言ってくれた小学生がいたのは嬉しかったですね。その体験講座を受けてくれたなかに、実際に『思考力型入試』を受けに来てくれた受験生もいました」と我妻先生は教えてくれました。

「3月の修了式には、学業で優秀な成果を挙げた生徒を表彰するのが恒例なのですが、今年、中学2年生で英検準2級を取得して表彰された生徒は、この『思考力型入試』の導入初年度に受験して合格し、入学してくれた生徒でした。自分で決めたことに集中して努力できるタイプの生徒で、『思考力入試』の手応えをあらためて感じました」と柳澤先生が笑顔で伝えてくれました。

「それだけでなく、昨年から新たに導入した『適性検

査型入試』を受験して合格～入学してくれたなかにも優秀な成績の生徒が多く、中1の成績トップの生徒は、この入試の受験生です」と、同中学校が導入したもうひとつの新タイプ入試である「適性検査型入試」の手応えについても、柳澤先生は語ってくれました。

この日大豊山女子の「適性検査型入試」は、女子校ながら近隣の都立大泉高等学校附属中学校の「適性検査」に近い形式であることが評判を呼び、導入初年度の2018年入試で20名の志願者があり全員が実受験。2年目の今春2019年入試では32名の志願者があり、そのうち31名が実際に受験に訪れました。

こうして、様々なタイプの小学生が受験できるよう入試を多様化し、入学への門戸を開いてくれている日大豊山女子中学校。まだ決定はしていませんが、来春2020年入試でも、英語インタビュー入試など、新たな入試の導入を検討しているといえます。

## この先は1年留学やターム留学も可能に。 次世代型キャリア教育『ENAGEED』で、 他者を受け入れ、自分を表現できる力を！

さらに、この数年、力を入れてきた「国際交流教育」と「キャリア教育」、「ICT活用」についても、さらに充実したものにしていきたいと柳澤先生は考えています。

「この先の国際交流教育としては、1年留学や、3ヶ月間のターム留学ができるようにしたいと考えています。これまでは、毎年4月に実施される日本大学の全付属校による『標準学力到達テスト』の受験との兼ね合いで、1年留学に踏み切ることは難しかったのですが、今後はそうした希望にも対応していく必要があると考えています。ひとまずはターム留学であれば、この問題もクリアできるので、積極的にバックアップしていくつもりです」と、生徒の将来を見据えた柳澤先生の“チャレンジ”は、今後も絶え間なく続いていきます。



今春2019年4月からは、いよいよ全学年の生徒がひとり1台、iPadを持って授業に臨むという！

また「キャリア教育」については、2018年度の中学1年生から導入した『ENAGEED（エナジード）』プログラムによって、「答えのない課題について考える」授業の効果が、すでに教員間にも浸透し始めているといます。このプログラムは、未体験の出来事を自分の力で解決し、未来を切り拓いていくことができる力を磨くために、まずは自分自身の「やりたいこと」や「特性」を十分に理解したうえで、様々な課題について「自分で考えて解決する」という経験を積み重ねていくことができる構成になっています。

「この『ENAGEED』の授業には、生徒も楽しんで取り組んでいます。一緒に学ぶ仲間（他者）の意見や考えから異なる世界や価値観を発見し、そのなかで自分自身の表現方法なども知っていく段階的な構成になっている点が良いですね。人の話をきちんと聞いて、拍手で受け止める姿勢なども身につけ、自分の意見も安心して言えるようになっていきます。もう中学生は立派に発表をしていますよ」と柳澤先生は言います。

「仲間への共感性や協働性、他者へのリスペクトの心を育てていける、とても良いプログラムだと思います。本校がいま掲げている“チャレンジ”の気持ちを高められる授業になっていくと期待しています。自分の意見や考えを安心して表現できる、空間ができることが、とくに女子の教育には大切だと感じています」と、我妻先生もこの授業の広がりにも期待しています。

「この『ENAGEED』の授業では、いまでは担当教員やクラスもシャッフルしての学年全体での取り組みなども始まっていて、これは面白い効果が期待できそうです。それ以外でもこのプログラムが、他の教科学習にも良い効果を生んでいます。ほかにたとえば、高校特進クラスの合宿のプログラムは生徒たち自身がつくるのですが、そういう“チャレンジ”も自然に始まっています。果敢に“チャレンジ”して、安心して失敗することもできる教育環境をつくっていきたいと考えています」と柳澤先生。

「実は『SSH（スーパーサイエンスハイスクール）』認定も受けたくて手続きは開始しているのですが、こちらはまだ少し実現に時間がかかりそうです」と、さらには先を見つめています。

日大豊山女子の「国際交流教育」と、こうした「キャリア教育」とをつなぎ、「探究学習」のなかでも重要な役割を果たす道具が「iPadの導入（＝ICT活用）」です。

これまで段階的に、生徒一人に1台のiPadを貸与し、授業で活用してきましたが、今年4月からは、いよいよ中1から高3まで生徒全員がiPadを持つ形になります。しかも、Wifi型ではなく、契約キャリアとの定額通信制によるLTE「セルラー型」のiPadです。

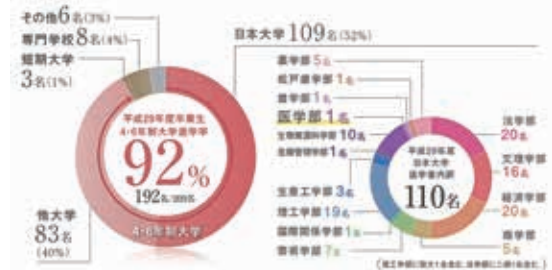


中学生の卒業発表。ICTを自然に使いこなしてプレゼンもできるようになる！

「実は校内の無線LAN環境を整える前の段階で導入を決めました(笑)ので、その結果、LTE型になりました。かえって良かったのが、通学の途中でも、学習や調べものに使えるようになったことで、生徒のモチベーションも高まりました。もちろん、電車やバスなどの交通機関内や公共の場では、周囲の迷惑にならないような使い方はアドバイスしています」と我妻先生。

こうした果敢な決断と、スピーディーな実行により、短期間に急速な変革と進化を遂げている日大豊山女子中高。そうした「豊山女子での学び」の新スローガンに「咲き誇れ 笑顔の花～将来の夢に向かって～」を掲げたのも、まだ最近のこと。「私は女子にしばられない。」同校の教育のもとで、女子の生徒の心のなかに、「やればできる！」という自信と、“チャレンジ”する心が育まれていく未来が楽しみになってきました。

### ●進路実績（2018年）



早稲田大学 1名	慶應義塾大学 1名	東京理科大学 1名	学習院大学 1名
青山学院大学 10名	立教大学 1名	中央大学 1名	法政大学 1名
成蹊大学 4名	成城大学 3名	立命館大学 1名	
芝浦工業大学 1名			その他多数
日本大学 (理・医・歯) 8名	順天堂大学 2名	東京医科大学 2名	
日本赤十字看護大学 1名	昭和大学 1名	昭和薬科大学 1名	
東京薬科大学 1名	横浜薬科大学 3名		その他多数